

話題提供

「文化を通じたまちづくりとは」

アートサポートふくおか

代表 古賀 弥生

皆さんおはようございます。ただいまご紹介いただきました古賀弥生と申します。よろしくお願ひします。私はこのフォーラムでお話しするのは三回目になります。一回目のフォーラムから続けて登壇していますので、もしかしたら何度もお目にかかっている方もいるかもしれません。毎回同じような話で大変恐縮ですが、私が今日与えられたテーマは「文化を通じたまちづくりとは」です。

文化とまちづくりがどの様に繋がるかという考え方について、これが正解というものはないと思いますが、私なりに整理していることを皆さんにお伝えして、お考え頂く一つのヒント、きっかけになればいいなと思っています。

私が用意した資料に沿って話してまいります。文化という言葉を使っていますが、私自身芸術文化系の活動が主な領域ですから、文化に関しては歴史文化、生活文化等さまざまありますが、私の話は芸術文化を中心としたものになります。ほかの領域の方たちと共通する部分もありますが若干異なるところもあると思いますので、そのあたりもおくみ取り頂きたいと思います。

資料に沿ってまいります。(8P資料I参照) 1.の「文化とまちづくりの関係」のところです。文化というときに私個人的には文化の中でも演劇が好きで、若い時暫くアマチュア劇団でお芝居をやっていました。その時、特に年上の男性の方たちから「あんた、なんか高尚なことば、しようねー」とよく言われました。別に高尚なことをしているつもりはなく好きで舞台上に立っていましたが、何か演劇や音楽、文化と言った途端に「俺は関係ないけん」と言われる方が多かったです。周囲の話ですが「俺はこれ(パチンコ)やけん」パチンコが悪いわけではなく、それも文化の一つかもしれませんが特に芸術系の文化といったときすごく自分たちから離れたところにあるものだ、しかも文化に親しんでいる人はそれが好きでやっている、自分の趣味の世界でやっていて、好きな人が好きなように楽しむ個人の世界の話だと、思われていたような感じがします。

しかし文化とはもちろん個人が好きになり楽しんで、その人がいきいきと生きていくというところもあり、もっと社会的な意味合いがあると思います。特にここ何年かの間に文化がもっている社会的な力に注目が集まるようになって、その力をもっともっと社会へ活かしていこうという動きも盛んになってきているように思います。

文化の社会的な力を二つに分けて考えてみます。一つは「人が人らしく生きる力を引き出す」「教育・福祉などの分野と結びつく」人づくりの力となっていることです。これはやっている本人自体が楽しんでいきいきと生活していけるということでもありますが、それだけでなくもう少し違うところで人が本当に人らしく生きていける、「QOL」(Quality of life)という言葉が聞かれたことがあるかと思いますが、生きることの質です。心臓が動

いているから生きているというだけでなく、どんな状況にでも人が人らしくいきいきと生きていける、例えば病気や障害があったとしても今よりもっと良い生き方が出来るという様に、常に前へ前へと進んでいく姿勢のことだと私は理解しています。

その **QOL** の向上に役に立つところが文化にはあるのではないかと思います。その例として私どもの **NPO** 活動の中に、学校に芸術家と一緒にいき体験型の授業をしています。日本舞踊やジャズダンス、パーカッションなどの方とも小学校へいきます。授業は演奏を聴かせる、お芝居やダンスを見せることだけでなく子供達と一緒に活動しています。こういう体験を通じて彼らが日頃授業の中で得ることができないようなワクワクドキドキ感や芸術が楽しく素晴らしいことを知るだけでなく、芸術家の生き様を知ることを通じて、成長を手助けする力が文化にはあると思うのです。

このような活動を 10 年余りしているので多くの写真があります。(P・P による映像出る) 例えば特別支援学校でさせて頂いた音楽と美術をミックスしたような授業ですが絵の上に乗って描いているのは画家の方です。ピアノの音楽を流しながらアーティストと子供達が一緒に作品を作ります。障害をもつ子供たちは日頃の授業の中で他の子供ができることが自分にはできない、劣等感を持つシーンが高学年になると見られるそうですがこの授業は誰でも出来る誰もが達成感を持つことが出来るということで非常にいきいきと取り組んでもらえました。このようなことが **QOL** の向上に貢献できると思い自分も実践しているところです。病院で活動している **NPO** ワンダーアートプロダクションは白い壁が多く味気ない空間になっている病院の壁を、入院中の子供達とアーティストと一緒に絵を描いてとてもカラフルな空間に変えて、病院の生活空間を居心地の良いものに変えようという活動をしています。このような事も文化が持つ人づくりの力といえると思います。

二つ目は「都市を再生し地域に活力を与える」「環境産業の分野と結びつく」と書きました。文化には先程申し上げたようにそれに関わる人が、いきいきするだけでなく、地域のことと言えば、文化に関わるイベントなどで多くの人が外からその地域を訪れるようになる、端的に言えば観光や産業が興ってくる、という部分に文化が作用する例がたくさんあります。観光産業だけでなく少し疲弊して元気がない商店街に文化が加わることで街自体が元気になっていく例として、スペースワールドの観客の声が聞こえてくる位の場所、北九州市の枝光本町ですが、ここは結構高齢化が進み多くの店はシャッターが閉まっている状況です。ここに「枝光商店街アイアンシアター」という劇場が出来ました。出来たと言っても建物がたっただけではなく、元銀行の支店が統廃合で空きビルになっていたところに、劇団の若い方が劇場として活用しているのです。公演だけでなく商店街と密接な関係をもちながら演劇活動をしています。お芝居を商店街の中で始めて、そこからお客さんを劇場に連れて行くといった仕掛けになっています。ある時はお芝居と商店街を組み合わせたイベントも催します。ここに劇場があり演劇活動がなされていることが多少なりともこの街に若い人を呼び込むきっかけになっている例です。その他に地域が活性化していく例として鹿児島島の「やねだん」という有名な地域づくりの事例があります。「やねだん」が有

名なのは、行政に頼らない地域の活性化、そのすごいところは自分たちで財源を造りだしています。また空き家が沢山あるのでそれを地域の方が掃除をし、人が住める状態にして、迎賓館と名づけそこにアーティストを誘致しています。そして「やねだん芸術祭」を開催したり、地域の中学生と芸術家が直に接する形で授業をする等さまざまな活動をしています。私も興味を持って見に行きましたが、同じように視察の方が一杯でした。視察に来た方に地産の「焼酎やねだん」や、おそばやお食事が出され、それにお金を払うという一種の経済活性化にも繋がっています。閉店したスーパーが今ではギャラリー「やねだん」になっていて、中ではアーティストの作品がいくつか入った福袋を売っていて下は公民館になっており、各地からの視察者にどのように「やねだん」を活性化していったかという講演会も催されていました。

まちづくりというか、地域を活性化していく文化の例として、直方市には直方谷尾美術館という小さな美術館があります。昔個人の医院だった建物で、今は直方市の市立美術館となり財団法人として運営されています。ここでは子供達を「子供スタッフ」として、来館した子供達に学芸員の仕事の一部を体験してもらうことを、もう五年程続けています。それは子供の教育の面で、文化に関わる人づくりにも貢献しているわけです。この「子供スタッフ」が描いた絵は、フラッグと呼ばれていますが、駅前から美術館へ行く途中あまり元気のない商店街に、絵（フラッグ）が飾られとても賑やかな雰囲気を醸し出すのに一役かっているのです。市の成人式には大きな垂れ幕を飾りますが、それを「子供スタッフ」が「おにいさん、おねえさん成人おめでとう」という気持ちを込めて書き、エールを贈る、このような活動を子供達と一緒に美術館がしているという例もあります。

子供達自身の **QOL** の向上にも繋がります。直方の町は子供達が元気でいきいきというかわくわくとした雰囲気が町中に漂い始めたという意味で、私は人づくり以上のものがあると考えています。

このように地域が元気になっていくような文化の力を私は「まちづくりの力」といいたいのですが、用意した資料の中では「街づくりの力」、まちの字を商店街の街という字を使っています。「街づくり」という言葉は、今はひらがなで「まちづくり」と書くことが多いと思いますが、私の周りの人でまちづくりと言った時何を思い浮かべるかというと、少し疲弊した地域の経済的な活性化のこと、という受け止め方をする人が多いような気がします。それも大事ですが経済が活性化する前にそこに住んでいる人が活性化せねばならないと思っていて、先程言った **QOL** 向上の「人づくり」も大事にしたいと思いました。

そこで「人づくり」と元気のない地域の経済も含めた活性化の部分を商店街の街という字を当てた「街づくり」と区別して、これは一般的用語ではないので世間では通用しないかもしれませんが私はそう呼んでいます。そして私は「人づくり」と「街づくり」を合わせて「まちづくり」と呼びたいと思っています。

「人づくり」と「街づくり」はお互いに関連性があります。元気になった人が街を元気にするし、元気な街に元気な人がまた集まってくるものだと思います。だから「人づくり」

と「街づくり」は交互に行ったり来たり、くるくる回っていく、回りながら高まっていくというイメージを持っています。

最後に「文化とまちづくり活動を結ぶつなぎ役」（9P 資料Ⅱ参照）2. というところですが、今申し上げたような「人づくり」とか「街づくり」はアーティストや文化の活動をしている人がいれば自然に興ってくるものではないと思います。何故かと言えば内側から湧いてくる芸術的な創造の意欲といったものを表現するのがアーティストですし、文化の活動をする人は、自分は〇〇をやりたいという気持ちを強く持っていて、その活動に関わられてもその為にとは限らないわけです。そこでアートの活動や文化の活動等とまちづくり活動を結びつける役目をしてくれる、つまり繋ぎになるような人がいてくれると、彼らがやっている活動が結果として「人づくり」や「街づくり」に繋がっていく可能性が高まると思うのです。このつなぎ役をする人がとても重要で、アーティスト、文化の活動する人も沢山いて欲しいのですが、つなぎ役も増えて欲しいと思います。つなぎ役も文化ボランティア活動の一つだと思うので文化の力をまちづくりに活かす橋渡しができるようなことを是非やっていただきたいと思います。

ここで「文化ボランティアの活動」を整理しておきます。先程田中さんの報告にもありましたように3. ①の美術館博物館ホールで言うとその施設からお願いされてその事業のお手伝いをするような補助的な活動が先ず一番多いのではないかと思います。そういった活動をしている人の中にも徐々にそれだけでは物足りなくなってきた、もう少し自主的な活動に近づきたい方もいるのではないかと思います②の「文化施設や文化イベントでの運営主体とのパートナーシップによる活動」硬い言い方ですが要は頼まれてやるのではなく、文化施設側にもっとこういうことをやりたいというように自分からアプローチしたり、文化施設の企画運営などに積極的に関わっていくような方もいるのではないかと思います。さらにもはや文化施設云々に関係なく街の中にどんどん出て行ってしまおう③の「地域文化を創造する自立した市民活動」、例として芸術文化系で言えば市民ミュージカルを自分たちで創ろう、映画祭をやろうとか、そのことでまちづくりをやろうという想いをもって活動している方も実際にいるわけです。

次に4.「文化ボランティアから文化のまちづくりの担い手へ」では先程言った①②③を逆に並べています。おそらく数は①にあげた人が多いでしょう。そこから何人かの人が②にいかれるのではないかと思います。そこからさらに③の活動に進んでいく人がいるのではないかと思います。文化ボランティアの現状で言えば、今はかなりの方が①に関わっていて②③に関わる方はどんどん少なくなっていますが先程申し上げたように、文化とまちづくりのつなぎやくとしての文化ボランティアにたいする期待から考えると、出来れば①から②、②から③というように進んでいく方が一人でも増えるといいなと思います。この辺が課題かもしれませんが本日のフォーラムで皆様と共にヒントを見つけることが出来ればと思っています。